

施設園芸による切りバラ生産

下関バラ部会

西村 和喜

経営の概要

私は山口県下関市で切りバラの栽培をしています。下関市は山口県を代表する都市の一つであり、人口は約28万人の中核市で、本州の最西端に位置します。ここ下関市の気候は複雑で、日本海側気候と瀬戸内海側気候と太平洋側気候の境界にあたるため、冬場は北西の季節風の影響で曇天が多く、雨・雪の降る日もあります。西と南を海に囲まれており、響灘を流れる対馬海流の影響もあって、一日の最高気温と最低気温の差は小さいのですが、霧が発生しやすい気候となっています。

生産施設の概要ですが、現在の経営は父を主軸として、母と私とパート従業員6人を合わせた9人で行っており、年間を通じて切りバラを栽培しています。現在の栽培面積が1500坪あり、ガラス温室が2棟、鉄骨ハウスが4棟で、年間約45万本を出荷しています。我が家の施設園芸の歴史は昭和44年頃より、父の代から始まります。当時の栽培面積は200坪の鉄骨ハウスでの土耕栽培でした。昭和54年に400坪のガラス温室を新設し、平成3年にはロックウールによる水耕栽培へ移行、そして鉄骨ハウスを400坪のガラス温室へと建て替えをし、平成4年に120坪の鉄骨ハウスを建て替え(台風19号の影響でハウスがつぶれたため)、平成8年に160坪の鉄骨ハウスを新設し、育苗ハウスも新設。その後、ヒートポンプや炭酸ガス発生機などを導

入し、さらに平成20年に480坪の鉄骨ハウスを新設し、現在に至ります。現在栽培しているスタンダード品種・スプレー品種は合わせて35品種で、主に下関合同花市場へ出荷しています。

自己紹介

私は小さい頃よくハウスの中で遊んだり、両親が仕事をしている様子を見ていたものの、私自身次男ということもあり、仕事の後を継いで農業をしようという気持ちは特にありませんでした。ですので、中学校を卒業後、高校も農業高校ではなく、普通高校に進学しました。そして高校2年生の時に進学について悩み、将来自分は何がしたいかを考えた時に両親の仕事をしている姿を思い浮かべたのです。小さい頃から両親が仕事をしている様子をずっと見てきていたせいも、園芸業界へ進む決心がつくにはさほど時間はかかりませんでした。その後、父の知人から紹介された千葉大学園芸学部園芸別科花卉専攻に入学しました。普通高校を卒業してからの入学ということもあり、当初は今以上に園芸について全く分からず、授業中も実習中もあたふたしていたのを今でも覚えています。園芸別科花卉専攻に在籍した2年間はとても充実した時間を過ごすことができ、さらにその時に出会った仲間達は今でもかけがえのない存在です。



鉄骨ハウス



家族(右端が筆者)



アーチング栽培のようす

研修・就農から現在に至るまで

園芸別科を修了後、広島県廿日市市にある(有)とくなが園芸に研修生として1年間お世話になりました。(有)とくなが園芸では栽培されている品種のほとんどがスプレーバラでハウスの総面積は1800坪です。最初は自分がお手伝い出来ることから仕事を始めましたが、3週間ぐらいで150坪のハウスの管理を任せられました。園芸別科花卉専攻に在籍していて卒業論文に『バラ』を課題にしていたものの、毎日が発見の連続でとにかくがむしゃらに仕事をこなすことに必死でした。1年間の研修を終え、平成16年より実家で切りバラの栽培を両親と共にスタートしました。

就農1年目は、実家の作業方針を学ぶと共にバラ栽培についての基本を学び、さらに研修期間の知識を生かし、いろいろなことを試しながら新品种の栽培等に励みました。

2年目以降は、いろいろな珍しい花型のバラや珍しい花色のバラの栽培に力を入れました。バラでありながらカーネーションやラナンキュラスの様な咲き方のバラや、珍しいグラデーションの花色のバラを栽培することで生花店の要望に応えられるようにということと、自分の中でいろいろな品種のバラを栽培してみたと思ったからです。

この頃から、全国大会や後継者交流会に行き始め、いろいろな人との出会いがあり、人脈を広げることが出来ました。そこでの講演で知識を学ぶと共に、他県の生産者と交流したり、ハウスを視察することでとても良い刺激も受けました。

その後、月日が経ち就農6年目で結婚。しかし、今のバラ栽培の経営では経済面で苦しいので結婚後も妻にはそのまま仕事を続けてもらっています。ゆくゆくは一緒に仕事をする予定です。僕は結婚を機により一層仕事に励み、就農9年目の現在はさまざまなスタン



バラの選別・出荷作業（花市場のセリ日の前々日に行う）

ダード品種やスプレー品種のバラの栽培を行っています。スタンダード品種・スプレー品種共に、基本となる赤色・ピンク色・白色・黄色・オレンジ色の品種は一年を通じて安定的に出荷できるように心がけています。

私の農園で栽培しているスタンダード品種の赤色は「サムライ08」、「レッドスター」、「レッドフランス」、ピンク色は「ハニーピンク」、白色は「ティネケ」、黄色は「ゴールドラッシュ」、オレンジ色は「ミルバ」などです。スプレー品種の赤色は「ファンファール」、ピンク色は「アイリーン」、白色は「ビビアン」、黄色は「ゴールドエンチャイルド」、「サラ」、オレンジ色は「ベイブ」などです。

時期やさまざまなイベントによって生花店が求めるバラの品種は変わってきますが、一年間通して農園の売れ筋品種は「サムライ08」、「サラ」、「ベイブ」です。

品種にもよりますが、最近では昔に比べるとスタンダード品種よりもスプレー品種の方が市場での人気は高いように思えます。これは生花店で花束やアレンジの注文等がある場合にスプレー品種の方がよりボリュームがあるように見えるからとのこと。そのこともあって、一時はスプレー品種の栽培割合を増やしたものの、スタンダード品種よりも芽かき等の作業の手間がかかってしまい、春先から夏場の特に忙しい時期は仕事が追いつかなかったため、現在の栽培割合はスタンダード品種6：スプレー品種4ぐらいにしています。

現代バラの生い立ち、現在の栽培方法について

バラの土耕栽培の生産現場では、土壌の劣悪化、改植に伴う経費・労力・生産性の低下、栽培圃場の土壌条件の不均一性に対する肥培管理の難しさ等の問題を



つねに市場で高値で取引されているサムライ08

抱えています。これらを回避するねらいとして、当初ロックウール栽培が導入されました。その後、肥培管理の数値化及び省力化が進みましたが、地上部の栽培管理は従来と変わらず、剪定という難度の高い技術から抜け出せないでいたため、省力化を意識する動きが出てきました。

そこで生まれた新技術がロックウールによるアーチング栽培です。アーチング栽培では、生育初期に発生する新梢をアーチ状にすべて折り下げ、その後に発生するベールシュートを株元から採花します。枝葉部の折り下げた形状がアーチ形になることからアーチング栽培と命名されました。

採花位置は常に枝の基部で行うため作業能率が良く、弱い枝は折り下げるので芽の整理事業の省力化が図られます。しかも剪定という難しい技術が不要となります。また生育が均一でステムの長さが揃うため選花作業の省力化も図れます。さらに、樹高が低くなる分、光線利用率が高くなると共に室内環境を平均化することが容易にもなります。

ロックウールによるアーチング栽培の場合、主に使われるのが挿し木苗と接ぎ木苗です。品種によって違いはありますが、スタンダード品種は接ぎ木苗の方が採花本数の増加やステムが長くなることが多いように思えます。挿し木苗の場合はありませんが、接ぎ木苗の場合は品種によっては台芽がよく出たり、継ぎ口が膨らんだりと親和性や台木との相性の問題もあります。数年でスプレー品種を改植する場合は、挿し木苗で栽培する生産者も多いようです。ちなみに当園ではスタンダード品種は主に接ぎ木苗、スプレー品種は挿し木苗と接ぎ木苗の両方を使用しています。接ぎ木苗にするか挿し木苗にするかは、栽培方法や品種の特性によって違ってきますので生産者が適宜判断しています。

課題と今後の目標

栽培していると解決すべき課題や疑問点は次から次へと出てきます。そのうち3つの大きな課題を挙げさせていただきます。

一つ目の課題は、現在の経営は父が主体なので、栽培技術を含めて農園の経営を私を中心となって進めていけるようになること。

二つ目の課題は、現在の出荷は主に地元の市場だけなので、他市場へのお荷も含めた販売先の販路を広げていくこと。

三つ目の課題は母の日・父の日やクリスマスシーズンや卒業式・入学式シーズンはバラの需要はありますが、真夏や特にイベント事がない月などにどうやってバラの需要を増やせるかです。また、クリスマスシーズンや卒業式・入学式シーズンは、バラの栽培にとって重油の燃料費やヒートポンプの電気料金などとてもコストがかかる時期なので、その時期にいかにコストを下げられるかも大きな課題です。

さらに数年前から輸入切りバラが大量に市場に流通し始めたため、その輸入品との対抗・住み分けという意味でも、今まで以上に品質の向上や、採花本数の増加を目指すことで経営の安定化を図っていきたくと考えています。また、新技術や新品種の導入、さらにオリジナル品種の育種等が目標です。その中で現在の栽培面積を維持しながら、この先もずっとバラの栽培を続けていきたいと思っています。

バラは周年出荷のため、1年間ほとんど休みは有りません。私自身、小さい頃から家族旅行には一度も行ったことがありませんでした。これからは、家族、パート従業員を含め仕事を上手に分担して時間の余裕を作り、年に1度くらいは家族旅行に行けるようになることも大きな目標の一つです。

最後に一言

バラというのは人に贈る花の中でも特別なものだと私は思います。私が一生懸命にバラを栽培することで『誰かが誰かを喜ばせよう』とするお手伝い出来ることがこの仕事の魅力だと思います。私が栽培したバラでたくさんの人が笑顔になることを期待しながら、これからもバラの栽培を頑張っていきたいと思っています。